
二択

amanojyaku

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二択

【Nコード】

N6312C

【作者名】

amanojyaku

【あらすじ】

俺の日常の一部。宏美の言葉は本当なのかもしれない。

行くか、行かないか。
帰るか、帰らないか。

俺はあと1時間59分以内に決断しなければならない。

ああ、俺ってこんなに優柔不断だったっけなあ。

とりあえず、何もしなければ、俺は行く、帰らない、ことになる。
うん、そうだ。

もし何か行動すれば、俺は、行かない、帰る、ことになる。

俺はベッドに倒れこんでみた。が、何も変わらない。

ああー、どうしよう。

俺はこういう時間が大嫌いだ。

そのクセ、こういう時間を過ごすことが多いのはなぜだ？

宏美の言葉を思い出す。

「マサは恐竜なのよ」

意味分からんねえぞ？

「は？」

「恐竜って足を踏まれてから、しばらくしないと痛みが分からないでしょ。ほんとマサそっくり」

ちょっと待て。俺はそこまで鈍感ではないぞ？

「それはちよつと違うんじゃない？」

「違わないわよ。マサって物事を判断する時、ちゃんと考えてるよ
うで考えてないのよ、自分のこと、これからのこと。いつも結果論
だけで判断する。こうなったら、こうしよう、とか、こうじゃなか

つたら、こうしてみよう、とか、そういうこと全く考えないじゃない」

「そんなこと、いちいち考えてたら日が暮れちゃうよ」

「そんなことない。私はいつも考えてるわよ」

そりゃあお前は賢いからな。俺はお前みたいに計算高くないんだ。

「計算高くなれとかそういうこと言ってるんじゃないの。後悔するぐらいなら、もっとちゃんと考えてから行動しなさいってこと」

なんだこいつ。俺の心の声が聞こえるのか。女ってコワっ。

「わかったよ。ご忠告ありがとう」

「どういたしまして」

もしかすると、宏美の言っていたことは正しいのかもしれない。

ともすると・・・俺は恐竜!?

いや、そういうことじゃないよな。

恐竜みたいってことだ、うん。

時計を一瞥する。

2時23分。

しばらくすると俺は深い眠りに落ちていた。

夢の中で、俺は昔の友人、潤一と電話をしていた。

寝ぼけ眼で時計を見る。

4時44分。

ああ、終わってしまった。

俺は行く、帰らない、という決断をした。

というよりも、そうせざるをえない状況になったからそうした。

あれ、これも宏美が言ってた結果論ってことなのか。

いや、違うよな。

これは必然なんだ。

いつの間にか床に落ちていた携帯を拾い上げる。

宏美から4回も着信があった。

俺はまた、恐竜と言われるのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6312c/>

二択

2011年1月27日15時13分発行